〈小学校　国語〉

自分の思いや考えを論理的に表現する子の育成

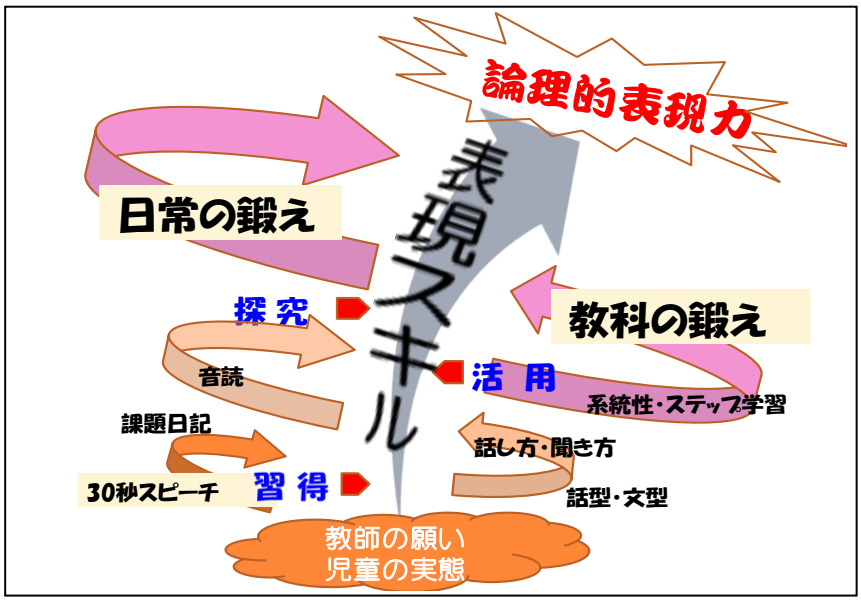
～「話すこと・聞くこと」の領域における表現スキルを育てる授業作りを通して～

南城市立知念小学校教諭　土　屋　勢　子

1　研究のテーマについて

これまでの授業実践を振り返ると，児童の実態に十分配慮することなく，１つの単元を終えた後のつながりや発展性，広がりをもたせる場の設定が弱く「生きてはたらく国語の力」を身につけさせることが十分ではなかった。そこで，表現スキルの定着・活用を図り，学習指導を工夫することで，論理的に表現する子への育成につながるだろうと考え，本研究を進めること

2　研究の特徴



3　研究の実際

スキルの習得で個別に指導

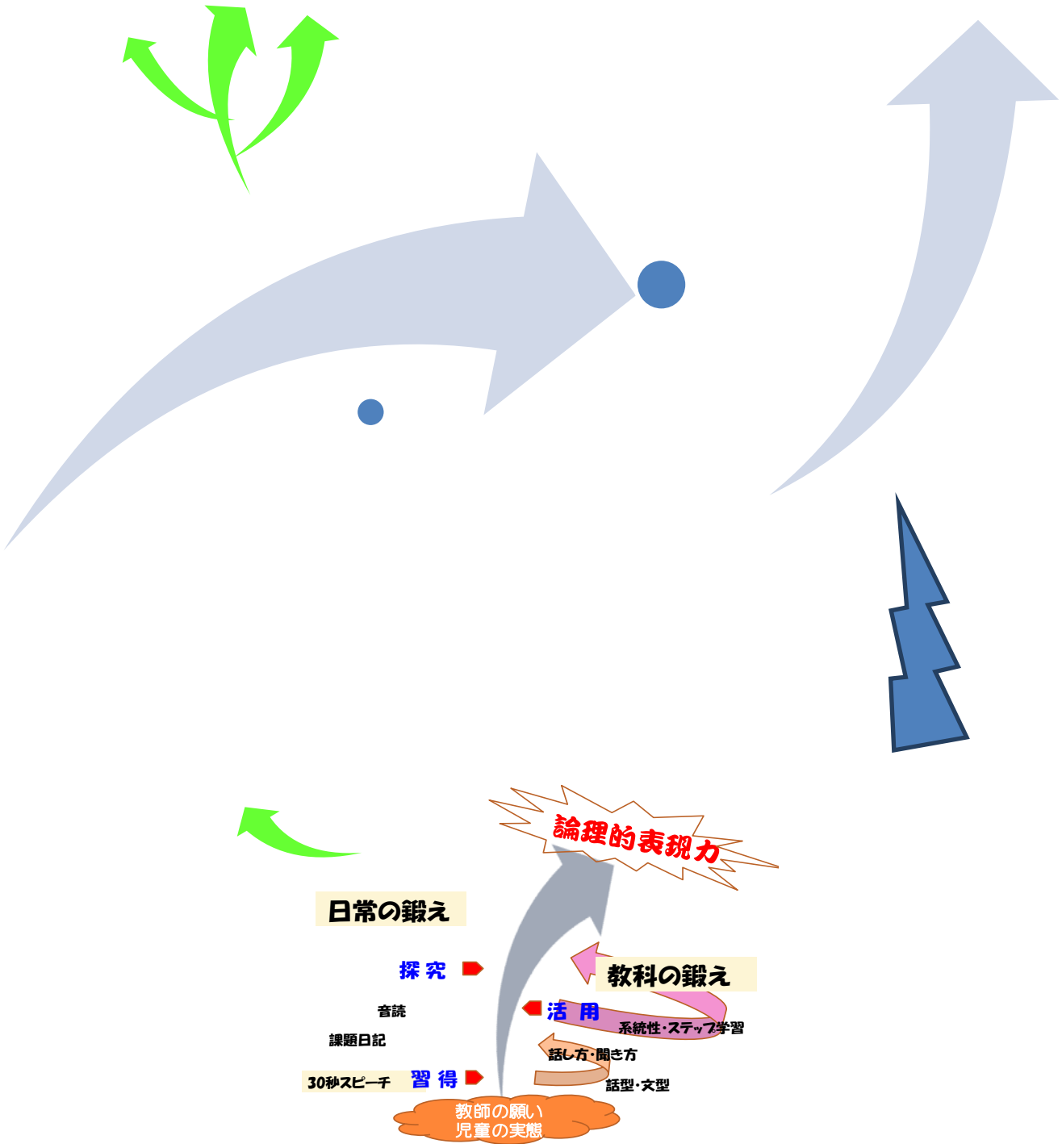
表現スキルをヒントに書く活動

自分の考えの形成や交流

4　研究の成果

① 言葉と言葉のつながりを意識した基本的な表現スキルの習得・活用を図ることで，児童に学習の仕方を身につけさせることができた。それによって，交流学習で自分の思いや考えを筋道を立てて伝え合う意識が高まり，「論理的に表現する子の育成」に有効であった。

② 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の関連を図り，指導事項の系統性と，形態や場の設定を明確にすることで，児童の自信や意欲を引き出すことができた。


論理的表現力
日常の鍛え
探 究
音読
課題日記
30秒スピーチ
習 得
教科の鍛え
活 用
系統性・ステップ学習
話し方・聞き方
話型・文型
教師の願い
児童の実態

児童の実態・教師の願い

〈小学校　国語〉

自分の思いや考えを論理的に表現する子の育成

～「話すこと・聞くこと」の領域における表現スキルを育てる授業作りを通して～

南城市立知念小学校教諭　土　屋　勢　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

今回の学習指導要領改訂・国語科改訂の要点の第１は，言語活動の充実があげられる。「実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身につける」ということになっている。

国語科においては，基礎的な知識や基本的な技能などを，目的や相手などに応じて，学習や生活に生きてはたらかせることのできる言語活動能力を身につけさせることが今，まさに求められている。そのためには，言語活動を支える基礎的な言語技術を身につけ，表現する授業作りが重要であると考える。

このような視点で自分の授業を振り返ると，教師の意図が曖昧で，児童の実態などに十分配慮することなく授業を進めてきた感がある。また，１つの単元を終えた後のつながりや発展性，広がりをもたせる場の設定も弱く，子ども達に「生きてはたらく国語の力」を身につけさせることが十分ではなかったように思う。その原因として，児童の語彙力がある。担任としての私は日々，読書活動の充実を目指してはいたが，一人ひとりの子ども達の語彙力の向上には結びつかなかった。また，文章の書き方やノートの使い方，発表のスキルなどの習得のさせ方にも不十分なところがあった。取り立てての指導をしなかったり，市販のノートをあたりまえのごとく使ったり，様々な発表の場においては，きちんと話型を示さなかったりと，子どもに対しての鍛えが弱かったと反省している。せっかく習得した知識や技能を活用したり探求したりする場の設定の弱さから，自分の考えを論理的に表現する力を十分育てられなかったようにも思う。子ども自身に学習の方法や進め方，状況について振り返らせ，必要な学び方や改善方法を説明させるなどの活動が少なく，自分自身の指導力の向上が急がれる。

そこで今回，表現スキルの定着・活用を図れば，論理的に表現する子の育成につながるであろうと考えた。「話すこと・聞くこと」「書くこと」などの表現する機会を充実させ，自分をみつめ，成長を実感できるような指導の工夫・改善も併せて行いたい。指導事項の系統性，形態や場面の設定を明確にすることで，児童の意欲を引き出し，自信をもって自分の思いや考えを論理的に表現する子どもの育成につながるのではないかと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説と検証計画

１　研究仮説

国語科の「話すこと・聞くこと」の学習において，次のような手立てを行えば，自分の思いや考えを論理的に表現する力がつくであろう。

(1) 「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連させ，知識や表現スキルの定着・活用を図る。
(2) 指導事項の系統性と，形態や場の設定を工夫し，児童の意欲を引き出し，自信をもたせる。

２　検証計画

「話すこと・聞くこと」に関するアンケート及び学力に関して事前に調査を行い，それを基にして「自分の思いや考えを論理的に表現する」ために，系統立てて体系付けた表現スキルを作成する。その際，児童の実態を客観的に把握するため，教師からみた児童の実態調査も参考にする。このようにして作成した表現スキルの定着を図り，繰り返し活用していく。検証授業の中で，一斉学習や個，ペア等の場面において，個人ノートや自己評価，教師の観察を基に考察・分析をする。さらに「話すこと・聞くこと」に関するアンケートの事後調査を行って，事前調査と比較する。以上の方法で，作成した表現スキルの効果的な活用を図ることによって「自分の思いや考えを論理的に表現する」指導に有効であることを検証する。

Ⅲ　研究内容

<table>
<tr><td>①事前調査</td><td colspan="4">調査内容：国語に関するアンケート及び学力調査
・調査方法：アンケート，標準学力調査
・調査時期：４月下旬～５月上旬
・調査対象：南城市立知念小学校３年生 46 名（２学級分）</td></tr>
<tr><td>②教材作成</td><td colspan="2">・時期：５月～６月
・事前調査を参考に
資料の収集と作成，編集</td><td colspan="2">○学習指導要領，教科書等の記載内容の分析
○地域の特性や児童の実態を把握</td></tr>
<tr><td colspan="5">単元名：小単元「よい聞き手になろう」「えらんだ理由を話そう」　　対象児童：知念小学校３年１組</td></tr>
<tr><td colspan="3">検 証 場 面</td><td>検 証 の 観 点</td><td>検証の方法</td></tr>
<tr><td rowspan="6">③検証授業</td><td colspan="2">・時期：６月～７月上旬
表現スキルの活用
・グループで自分の考えたことと，その理由をはっきりさせて，話したり聞いたりする場面
・検証授業全６時間
・実施学校　南城市立知念小学校３年１組</td><td>＊「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の関連を図り，子どもの実態にあった表現スキルを活用することで，筋道を立てて表現する力を育てることができたか。</td><td rowspan="6">・授業観察
・ワークシート
・自己評価
・授業後のアンケート分析
・ＩＣレコーダー</td></tr>
<tr><td>検証授業</td><td>検証場面</td><td>検証の論点</td></tr>
<tr><td rowspan="2">「よい聞き手になろう」
（光村図書）
３時間</td><td>・話す・聞く活動
（話し合うなど）</td><td>・話の中心に気をつけて聞き，質問したり感想を述べたりすることができたか。</td></tr>
<tr><td>・書く活動</td><td>・話したいことのポイントを書くことができたか。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">「えらんだ理由を話そう」
（東京書籍）
３時間</td><td>・話す・聞く活動
（話し合うなど）</td><td>・自分の考えと理由を明確にして，相手に分かりやすいように整理して話すことができたか。</td></tr>
<tr><td>・書く活動</td><td>・文章の構成を考えて，理由を分かりやすく書くことができたか。</td></tr>
<tr><td>④事後調査</td><td colspan="4">・調査内容：「話すこと・聞くこと」に関するアンケート
・調査方法：アンケート
・調査時期：（検証期間７月上旬～９月上旬）
・調査対象：南城市立知念小学校３年生 23 名（３年１組）</td></tr>
<tr><td colspan="3">作成した表現スキルの定着と活用した授業展開は，「自分の思いや考えを論理的に表現」することができたか。</td><td colspan="2">①～④の結果</td></tr>
</table>

1　「論理的に表現する」について

(1) 論理的な表現とは

中央教育審議会答申(2008 年)によると，「国語科については，実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身につけること」「特に，論理的に思考し表現する能力，互いの立場や考えを尊重して，言葉で伝え合う能力を育成すること」などが強調されてきた。つまり，論理的に表現することは，論理的に思考することと密接な関係があることがわかる。

日本語教育大辞典によると「論理」とは，『議論・思考・推理などを進めて行く筋道。思考の法則・形式，論証の仕方』であり，「論理的」とは『論理の法則にかなっているさま』とある。つまり，『論理的に表現する』とは，論理的思考が過程にあり，自ら思ったことや考えたことを，話す，聞く，話し合うことや書くことなどの活動において，事実や根拠に基づいて筋道を立て表現することと捉えられる。

そもそも，論理的に表現するという行為には，自分の考えや伝えたい事柄を，分かりやすく相手に伝えるための目的が前提にある。

国語科において，表現する内容は話す，話し合う，書く，書き合うことだと考えられる。それらのことを，説得力のある表現をするために，論理的な思考をたどって論理的に表現をすることが重要だと考える。つまり，相手意識や目的意識をもった談話や文章の構成へとつながる。次の**表 1** は，「小・中学校における論理の学習内容」の資料である。

また，論理的に表現するということは，自分の思いや考え，あるいは主張などを支える理由や根拠を明らかにすることが重要となってくる。そのための基本的な技能として，次の五つが挙げられる。

① 事実と感想や意見との関係に注意しておくこと。
② 中心部分（文や段落）と付加的部分に注意しておくこと。
③ 表現内容にふさわしい語句や文を効果的に使うこと。
④ 具体例を挙げて説明や描写などを工夫すること。
⑤ 一文を短くし，適切な接続詞を使い，文末表現を工夫すること。

以上のような知識や技能を繰り返し，何度も活用し，活用したことを意識することで，確実に手堅く習得でき，習得したことが真の学力となり，生きた実践的表現力へとつながるものと考える。

表 1「小・中における学習内容としての論理の系統性」（全国大学国語教育学会 2010, 於東京学芸大）

論理の型	結論を最初に述べる方法	統括型・双括型
	結論を最後に述べる方法	尾括型
	一般的な原理から事実や命題を推論する方法	演繹法
	事実や事柄から一般的な原理や法則を導き出す方法	帰納法
	時間的順序による方法	経験や事件
	空間的順序による方法	構造や組織
	習慣的順序による方法	五十音順
文章構成	序論→本論→結論	三段構成
	起→承→転→結	四段構成型
展開の方法	問い→答え	単一構造
	問い→答え	繰り返し構造（複数）
	「答え」の展開構造	事実-考察-意見
	具体化の一般化	
叙述の方法	書き出し方・・・・・・・・・○話題提案型　○問題提起型　○関心誘導型 問いの方法・・・・・・・・・○問題提示案内型　○視点提示型　○疑問文型 文末表現・・・・・・・・・・○事実の文末　○考察の文末　○意見の文末 事実の述べ方・・・・・・・○事実の内容のまとまり　○事実の順序　○事実の相互関係	

叙述の方法	考察の述べ方・・・・・・・○整理　○分類の観点　○解釈　○分析の説明　推測 断定的な叙述と推量的な叙述○断定的＝確信的，確証的　○推量的＝曖昧さがある 論理の階層性（説明の順序）○第一に，まず，○第二に，次に,○第三に，さらに 根拠と理由・・・・・・・・・○根拠＝理由を述べるための裏付けとなる事実 ○理由＝結論のためのわけ 意見・・・・・・・・・・・・○主張　○提案　提唱　○喚起　○啓蒙　○問題提起 ○警鐘　○示唆
論理の整合性	論理の飛躍，論理の穴・・・○説明不足　○矛盾 事実の選材の適否・・・・・○強い事実と弱い事実　○客観的な事実と主観的な事実 事実の順序，問題解決の過程○因果関係　○時系列　○発生順　○比較，対比など

こうした項目を学習教材ごとに洗い出し，学年の系統に沿ってどの学習教材において何を扱うかをカリキュラムとして作ったものを，「表現スキル」として習得するために活用していくことが大切だと考える。そして，習得したことを活用することが意味のある活動として，学習者自身に実感させ，論理的表現への省察（話すこと・聞くことおよび書くことに関するメタ意識）を重視した学びの創造が求められる。

(2) 論理的に表現する意義

中学年の子ども達は，生活の場面において「面白かった」「楽しかった」「わからない」など単語で話し，言葉が抽象的なのが多いと思われる。また，自分の都合で話をしたり，書いていくうちに，何を伝えたいのか戸惑ったりすることもよくある。論理的に思考し，表現する力の育ちが十分ではないように思う。その主な原因は，目的意識や相手意識，場面意識，方法意識などの曖昧さがあるのではないだろうか。

また，日本国語教育学会が 2005 年に実施した指導者を対象としたアンケートにおいても，その意識を窺い知ることができる。『「これからの国語科」について，「特に大事だ」と思われるもの』を選ぶ問いで，「論理的思考力」を選択しているのは 34%，「論理的な文章表現」は，32%という結果となっている。（日本語教育学会『月刊　国語教育研究№411』2006.7,72 頁）このことからも，これからの子供たちに求められているものは，「説明したり発表したりする能力」や「考えをまとめて文章を構成する能力」であり，論理的に思考し，表現する力の育成にある。その中でも，とりわけ「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に関する表現を通して，論理的な表現の能力が求められている。論理的思考を礎として，教育活動全般において論理的に表現する力を育むことを意識する必要がある。

表２　五つの言語意識（『読解力向上に関する指導資料−ＰＩＳＡ調査』より）

目的意識	・何のために，その行為をするのかということは表現することの中心になる。例えば，自分の意見を言う場合，自分が持っている意見を理解してもらえばいいのか，自分の意見に賛成してほしいのかによって表現の仕方が変わってくる。
相手意識	・相手に説明しようとしている事柄についてどれくらいの知識をもっているのか等，相手の理解の状態，関心の方向等について意識させ，相手意識をもたせるようにする。
場面意識	・「話すこと」においては，場面や状況は大事である。例えば，教室の児童を相手に教室でスピーチをするのと，体育館で全児童に，何かを説明するのとでは，表現する内容の組み立ても変わってくる。
方法意識	・目的・相手・場面さらには内容によって，表現する方法は変わってくる。例えば，自分が調べたことを説明する場合，ポスターセッション形式でするのか，作文形式にするのかにより，表現内容も表現の方法に合った適切なものにしなくてはならない。
そ の 他	・様々な条件によって表現の内容は変わってくる。例えば三分間スピーチや三十秒スピーチは，内容や仕方が変わってくる。また，書くときの文字数や時間の制限，書き方の条件の違いもある。

⑶ 「話すこと・聞くこと」について

児童の意識として「話すこと・聞くこと」は，日頃のおしゃべりと変わらぬ感覚が実態としてある。おしゃべりも話すことや聞くことの一つではあるが，国語科で捉える「話すこと・聞くこと」は，互いの立場を尊重しながら音声言語を通して，適切に表現したり正確に理解したりする力を身につけることだと考える。

話すことに関しては，語彙の乏しさから適当な言葉が見つからずに話せなかったり，話す内容に自信がもてず，話そうとしなかったり，声が小さく十分に伝わらなかったりすることがよくある。また，聞くことに関しては集中できずに何度も同じことを聞き返したり，大まかに内容を聞き分けることができなかったりと，問題となるところも多い。そこで，「何を」「何のために」話すかという話題や内容，目標と「どのように」話すかという方法や技術を，系統的・分析的にきめ細やかな指導の手立てを講ずる必要があるといえる。そして，国語科のみならず，あらゆる機械を捉えて話す力や聞く力を身につけさせたいと考える。

日常的に力をつける有効な機会として，「朝の会」でのスピーチ活動や音読活動を取り上げ，相互に話したり聞いたりする活動を織り込む学習が効果的だと考える。声を出させること，形から入り，形から中身へ，話し方の工夫など日々の小さな積み重ねを大切にしたい。また，学習意欲や温かい学級づくりを基盤とし，気軽に自由に話せる，互いに認め合い，励まし合えるような好ましい人間関係づくりが重要だと考える。

⑷ 表現スキルについて

国語科の基礎スキルとは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動が展開される基礎となるものである。それは発声・発音や間，リズムや文字力，語彙力，文法などと捉えられる。

本研究で捉える「表現スキル」とは「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する領域を密接に関係づけて，自分の思いや考えを表出するスキルとした。子ども自身が表現スキルについて学び，学んだことを意識して，普段の生活の中ですぐに生かせるような表現スキルの定着や活用を図ることで，論理的に表現する力が育まれていくと考える。

そして，確実に「表現スキル」の習得・活用を図るには，単なるドリル学習ではなく，易から難へのステップ学習，つまり幼小中を見越した学年相応に螺旋的・系統的に学習する学習法を取り入れることが，より効果的と思われる。

また，表現スキルは，他教科の学習や，日常生活においても常時「生きてはたらく活用スキル」として重点的に指導したいと考えている。表現スキルを習得，定着する学習法を獲得して，達成感を喜び合い，人間力育成の基盤である人間関係力を高めるべく，コミュニケーション能力を育んでいく必要がある。

表３　表現スキルのプロセスの過程（鶴見大学　岩間正則氏）

マッピング
○頭の中の考えや得た情報を視覚化する。 ・目的や課題を中心にして，関連する情報を書き出す。関連した情報が広がったりつながったりする中で論理的思考がはたらき，表現したい内容が選択されて表現の仕方も明確になってくる。
表現したい内容を関連づける
○表現したい内容を関連づける。 ・自分の考えとその理由，主張とその根拠，提案とその理由など，多くの情報を意識して関連づける活動をする。
問いと答えの関係を明確にする
○自分が発信したいことを問いと答えの関係で整理する。

Ⅳ　授業実践

【授業実践１】

１　検証授業の指導

⑴ 単元名　「質問したり感想を言ったりしよう」

⑵ 教材名　【よい聞き手になろう】（光村図書）単元全３時間

⑶ 単元設定の理由

①　教材観（省略）

②　児童観（省略）

③　指導観

本単元では，児童が興味や関心を抱く話題の中で，「話すこと・聞くこと」「書くこと」（質問をしたり感想を述べたりする）の活動を通して，主体的な聞き手を育てる表現スキルを培っていく。単元の前半では聞き手に視点をあて，聞き手を中心とした言語活動を行うことによって「よい聞き方，よい話し方」を楽しく学ぶ。「話の中心に気をつけて聞く」ためには，話し手が一番伝えたいと思っていることは何なのかを考えながら聞くことが必要になる。また，「質問したり，感想を述べたりする」ためには，自分の経験と結びつけて感想を述べたり，ほかの人の質問からつなげて補う質問をしたりできるようにすることが大切になってくる。さらに，教材に示された感想や質問の観点を理解し，自分の感想や質問はどれにあたるかを意識することが大切である。

中学年では，相手意識をしっかりと持ち，主体的に「聞く」ことができるようにさせたい。聞き手を中心とした言語活動を行い，「よい聞き方，よい話し方」のポイントを学習する活動を設定することで，児童に「聞く」力を伸ばすことができたという「実感」「自信」「意欲」などを引き出す表現スキルの定着・活用の視点をもって指導していきたい。

２　単元の指導目標

⑴ 単元の指導目標（身につけさせたい力）

①　話し手が何を話したいのかを考えながら聞き，その話したいことに沿った質問をしたり，感想を述べたりすることができる。〔話・聞⑴エ〕

②　何を伝えたいのかはっきりさせながら，聞き手にきちんと伝わるように，大事なことを落とずに話すことができる。〔話・聞⑴イ〕

③　関心のあることなどから話題を決め，聞き手にきちんと伝わるように大事なことをメモすることができる。〔話・聞⑴ア〕

３　指導計画と評価計画　　（全３時間）

次	時	学　習　活　動	ね ら い （評価基準・方法）	A 十分満足できる	C 努力を要する （手立て）
〔日常の鍛え〕　・課題日記指導　・音読指導　・スピーチ指導					
一次	1	◎よい聞き手になるためのポイントを見つける。 ・「相手・自分・内容」の３つの視点をおさえた聞き方を知る。	○話の中心に気をつけて聞き，適切な質問や感想を考えることができる。	・興味を持って話を聞き，進んで質問したり感想を言ったりしようとしている。 ・話の中心に気をつけて聞き質問したり感想を言ったりしている。	・具体的に事例をいくつか出し，その中から（相手・自分・内容）３つの視点のどこに入るか分類できる。
	2	◎きちんと伝えるために必要なポイントを考える。 ・何が（主語）をはっきりさせて話す。 ・どのくらいをはっきりさせて話す。	○例文を読んで相手にわかりやすく伝えるために落としてはならないことを考えることができる。	・聞き手に正確に伝えるために，落としてはいけない言葉を理解している。	・前時の事例を参考にさせ，よい話し方やよい聞き方を考えることができる。
二次	3 本時	◎自分が話すことをメモし，「話し上手は聞き上手タイム」を行う。	○話の中心に気をつけて聞き質問したり感想を述べたりできる。 ○日常生活から話題を集め適切な言葉遣いで筋道を立てて話すことができる	・話しの中心をはっきりさせて出来事の報告や説明をしたりそれを聞いて感想を述べたり質問をしている。（話し合い）	・板書を参考に，ポイントを意識してメモを見て話す。 ・「よい聞き方」ポイントを意識させる。

４　本時の学習（３／３）

(1) 本時の目標

①　話の中心に気をつけて聞き，質問したり感想を述べたりすることができる。

②　日常生活から話題を決め，適切な言葉遣いで筋道を立てて話すことができる。

(2) 本時の授業仮説

「話す・聞く」活動において，指導事項を明確におさえ，取り出し指導と児童自ら振り返ることを繰り返す学習を行うことで，表現スキルの定着・活用が図られ「自分の思いや考えを論理的に表現する子」の育成の基礎を培うことができるであろう。

(3) 準備：前時までのまとめ（掲示用），エコーマイク（玩具），自己評価表，ワークシート

(4) 本時の展開

課程	主な学習活動	主な発問・指示とその意図	児童の反応や教師の手立て・対応	評価規準
つかむ	1．学習の課題を確認する。 めあて 「話し上手は聞き上手」大会をしよう！	○これまで学習してきたこと生かして，グループごとに「お話タイム」をしましょう。 ※児童が意欲的に取り組めるように，活動名を「話上手は聞き上手タイム」とする。	○目標をもって活動に参加するため，振り返りができるカードを用意し，話し方，聞き方のポイントを意識させる。 ポイントに気をつけて，取り組みましょう。	
展開	2．担任２名の話の実演を通して聞き方，よい話し方について考える。 【目標】 話すとき①話の中心をはっきりさせて話す。 ②大事なことを落とさないように話す。 聞くとき①他の人の質問や感想もしっかり聞く。 ②聞き終わったら，感想を話す。 ③わからないときは質問をする。 3．グループごとに話題を決める。 4．自分が話したいことを考える 友達の応援をうけながら話しています！ 5．「話し上手は聞き上手タイム」を行う。 聞いた後，私は何を質問しようかな？	○実演を通して，いいなと思った質問の仕方や感想の言い方を発表しましょう。 ○グループごとに話題を決め，テーマに沿って自分が話すことを考えましょう。 ○「話し上手は聞き上手タイム」を行います。グループごとに始めましょう。 	○前時までに学習したところではあるが，改めて確認し，これから行う「話し上手は聞き上手タイム」の目標を立てさせる。 ○教科書の「たいせつ」を読み，よい聞き方，よい話し方をまとめる。(模造紙にまとめていつでも参考にできるようにしておく。) ○話し合いのグループ編成は，１グループ３名～４名にして，発言を多くさせる。 ○一人一人がテーマに沿った話ができるよう，テーマを限定しすぎないように声をかける。 ○児童の言葉でまとめさせる。 ○話すことを決めるときにメモをすると，考えがまとまりやすくなると知らせる。 ○話し方のポイントを落としていないか確認させる。 ○話すことが苦手な児童に個別に支援する。 ○話し手の足りないところは質問で補うようにし，話し方そのものについては指摘しないようにさせる。 ○共感的な雰囲気の中でできるよう，次のことを確認しておく。 ・話し手がお辞儀をしたら聞き手は拍手する。 ・話し手の話に対して，１人１回は質問をし，感想を言う。 ・話し方について攻める雰囲気にならないように十分に配慮する。 ・共感的な聞き方をほめ，あたたかい雰囲気を作る。 ・聞き手どうしの質問，感想が出てもよい。	〔話す・聞く〕 ・話の中心をはっきりさせて出来事の報告や説明をしたり，それを聞いて感想を述べたり，質問をしたりしている。 (話し合いの様子)
まとめ	6．「話し上手は聞き上手タイム」を振り返って，各自まとめる。	○グループでの「話し上手は聞き上手タイム」を振り返って思ったことをまとめる。	・振り返りカードに授業の感想を書く。	

５　授業仮説の検証

本時の授業仮説は，基本的な表現スキルについて教材を開発して１回目の検証授業を行った。考察については，授業観察や児童の自己評価とワークシートを基に行った。

⑴　「話し上手は聞き上手」のスキル活用について

授業実践では，話す力をつけるために，話す力と表裏一体の聞く力を育む授業を意図的に行った。**表４「話し上手は聞き上手」**で，三つの聞き方を意識させ，特に話の中心や，自分と比べて聞くことに着目した交流活動を展開した。

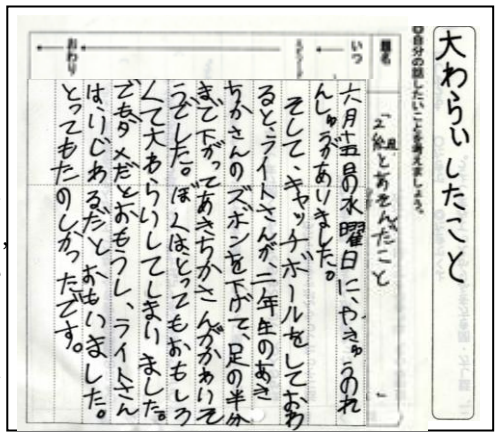
そこでは，相手の話に耳を傾けたり，最後まで聞いたり，わかろうとする姿勢など相手を尊重する態度が以前に比べ見られるようになった。一方，話す内容によっては個人差があり，話のポイントを押さえたスキルだけではなく，話すために書く活動を含めた表現スキルが，より効果的だと感じた。

表４「話し上手は聞き上手」

自分を聞く	内容を聞く	相手を聞く
自分と比べて（同じ・違う）ところに着目	話の中心に着目	話し手の長所（よい所）に着目
・ぼくも○年生の弟がいます。僕だったら○○です。○○さんは、弟をかわいがっているんだと思います。	・大きさはどれくらいですか。 ・竹の子の大きさはどれくらいですか。〈主語を入れて〉 ・竹の子って竹やぶに生えると思うけど，近く竹やぶはありますか。 〈聞いたことや知っていることとつなげる〉	・○○さんの声が大きくてよかったです。 ・○○さんは立つ姿勢がよかったです。 ・○○さんはメモを覚えて話していてすごいです。

⑵　ワークシート活用の工夫について

検証授業の話題は，①「やったぁ」とさけびたくなったこと②一番ラッキーだったこと③自分だけの発見④心がほわっと温かくなったこと⑤今だから話せる失敗⑥自分に拍手したいこと⑦大笑いしたことなど，７つの中からテーマを決めて活動を進めた。話題が多く，自由にワークシートに書き込む様子が見られた反面，ワークシートの上の項目にとらわれて，教師の意図した活用は十分できなかった。単純で，且つわかりやすいワークシートの作成方法を吟味して作成する必要がある。また，ワークシートのどこに表現スキルを織り込み，児童が意識的にスキルを活用する中で，楽しく身につけさせるかということも考えていかなければならない。


大わらいしたこと

自分の話したいことを考えましょう。

題名　「絵とあそんだこと」

いつ　六月十五日の水曜日に、やきゅうのれんしゅうがありました。

そして、キャッチボールをしておわると、ライトさんが二年生のあきちかさんのズボンを下げて、足の半分きて下がってあきちかさんがかわいそうでした。ぼくはとってもおもしろくて大わらいしてしまいました。

でもダメだとおもうし、ライトさんはいじわるだとおもいました。

とってもたのしかったです。

おわり

資料１　検証授業１のワークシート

【授業実践２】

１　検証授業２の指導

⑴　単元名　「えらんだ理由を話そう」　東京書籍上「３年上」

⑵　教材名　「えらんだ理由を話そう」　単元全３時間

⑶　単元設定の理由

①　教材観（省略）

②　児童観（省略）

③　指導観

この教材の重要指導事項は，A話す・聞く⑴イ「相手や目的に応じて，理由や事例などをあげながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど，適切な言葉遣いで話すこと。」である。「話すこと・聞くこと」の学年最初の教材は，目的に応じた話し方を学ぶことをねらいとしている。２年生５月に学習した内容「ことばで絵をつたえよう」では，相手に絵を見せずに言葉で説明するという，ゲーム形式を取り入れて，大きな情報から伝えるという説明の順序や順序を表す言葉の使い方，説明すべき要素の選び方などを学習した。それを踏まえて，本教材では，意見と複数の理由を整理して分かりやすく伝える話し方について学ぶ。

理由を明確に示しながら自分の思いや考えを述べることは，相手に考えを理解してもらう上で重要である。その際，理由は１つよりも複数ある方が説得力も増すことにも気づかせたい。複数の理由を示して相手に分かりやすく伝えるためには，考えた理由を整理して話す必要がある。いろいろ

な視点に立って理由を考える力，相手に分かりやすい具体的な理由を挙げる力，選んだ理由を順序立てて話す力を育てることが大切である。

また聞き手として相手の考えを理解するために，考えを支えている理由に着目して聞こうとする態度も育てたい。考えを述べる際の基本的な話型を身につけ，進んで自分の意見を述べる力を育むことを目指したい。

２　単元の指導目標と観点別評価規準

(1) 単元の指導目標（身につけさせたい力）

①　話し手が何を話したいのかを考えながら聞き，その話したいことに沿った質問をしたり，感想を述べたりすることができる。〔話・聞(1)エ〕

②　何を伝えたいのかはっきりさせながら，聞き手にきちんと伝わるように大事なことを落とさずに話すことができる。〔話・聞(1)イ〕

③　関心のあることなどから話題を決め，聞き手にきちんと伝わるように大事なことをメモすることができる。〔話・聞(1)ア〕

(2) 観点別評価規準　　単元名「えらんだ理由を話そう」

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○教科書の話題に興味を持ち，スピーチを通して伝えようとしている。	○理由を挙げながら話題に沿って分かりやすく話している。	○理由を表す時に使う言葉を取り入れて，整理し分かりやすく書いている	○話例を読み，考えとと理由を確かめ，話し方や言葉の使い方に気づく。	○理由を表す言葉や事柄がいくつかある時に使う言葉が使える。

３　指導計画と評価計画　　（３時間）

次	時	学習計画	評価規準 【観点】（評価方法） 検証の観点	A　十分満足できる	C　努力を要する 個への指導の手立て
一次	1	・学習のねらいを確かめる。教科書Ｐ35の話例をもとに，考えと理由を分かりやすく伝えるには，どのように話すとよいか話し合う。	・教科書の２つの例を比較し，考えと理由を分かりやすく伝える話し方について理解することができる。 【話す・聞く】【関】 （ワークシート・発言） ワークシートに書き込む	・選んだものとその理由を分かりやすく伝える話し方の工夫について考えようとしている。	・選んだものとその理由を，言葉の使い方に習って考えることができる。
	2	・教科書Ｐ34の話例（旅行するなら車か,電車か）で考えと理由を話す練習をする。	・考えと理由を分かりやすく伝える話し方を意識して，選んだものとその理由を話す練習をすることができる。 【書く】【話す・聞く】 （行動観察・ワークシート） ワークシートに書き込む グループの話し合い	・考えと理由を分かりやすく伝えることに関心を持ち，進んで生かそうとしている。 ・分かりやすい話し方を意識して話したり聞いたりし，よい点や直した方がよい点を考えている。	・考えと理由を結びつけて話す練習ができる。 ・メモを見て，話すことやや友達の話し方のよいところを参考にしようとしている。
二次	3 本時	・教科書Ｐ36の「やってみよう」で考えと理由を話す練習をする。	・考えと理由を分かりやすく伝える話し方を意識して，選んだものと理由を整理して話すことができる。 【話す・聞く】 （発言・ワークシート） 評価カード グループの話し合い	・学習したことを生かしながら，自分の考えと理由をはっきりさせて整理して話している。	・理由を表すときに使う言葉や事柄がいくつかあるときに使う言葉，比べるときに使う言葉の例を参考に，自分の考えと理由を話そうとしている。

４　本時の学習（３/３時間）

(1) 本時の目標

○考えと理由を分かりやすく伝える話し方を意識して，選んだものと理由を整理して話すことができる。　　【Ａ話す・聞く(1)イ，Ａ話す・聞く(2)エ，Ｂ書くこと(1)ウ】

(2) 本時の授業仮説

○「話すこと・聞くこと」と「書く」活動を取り入れた学習指導①ワークシートの工夫②形態や場の工夫をすることで，自分の思いや考えを筋道立てて表現していく力が育つであろう。

(3) 準備：ワークシート，振り返りカード，めあて（掲示用），これまでの学習のまとめ（掲示用），ＩＣレコーダー

(4) 本時の展開（３／３時間）

課程	学 習 活 動	教師の支援(☒)と指導上の留意点(○)	形 態	■授業仮説の検証の視点 ◇評価（評価方法）・準備
導入 7分	１．主語・述語・その他の言葉を取り入れてダンダンゲームをする。 ２．前時の学習を想起する。 ３．本時のめあてを確認する。 ① 自分の考えとその理由をわかりやすく話そう。 ② 話し方のよい点や直した方がよい点を考えながら聞こう。	○ウオーミングアップにゲームを取り入れる。（主語と述語，その他の言葉の関係に気をつけながら進める。） ○本時のめあてを確かめ，前時の活動を振り返らせる。 ○担任が，デモンストレーションをやって見せて想像をかき立てながら目当てを確認する。	一斉 グループ	・前時の学習内容を黒板横に掲示する。 ・めあて
展開 30分	４．教科書の話題についてどちらがよいか選び，その理由を書き出す。 誕生カードを書くなら色鉛筆かサインペンか。 毎日，家の手伝いをするなら風呂掃除か皿洗いか。 ５．３人１組で役割を交代しながら，選んだものとその理由について話したり，聞いたりする。 えらんだものは同じだけど，理由は違うよ！	○相手がわかりやすいと思う理由を考えて書くよう促す。 ☒「何となく」などの漠然とした理由しか挙げられない児童には，話題について基本的な状況を思い浮かべるよう促す。 ○分かりやすく伝える話し方を意識して，話したり聞いたりする。 ○理由がよく分かるかを考えながら聞かせ，よかった点や直した方がよい点を具体的にアドバイスさせる。 ○段階的に事前の理由を書き出さずに，頭の中で整理して話すようにさせる。 ☒状況をみながら，ミドルコメントを入れていく。 ○考えと理由を分けて話しているか，理由は整理されているかなどをまとめたチェック表を使って書かせる。 ○グループに，実際に発表をさせて確認していく。（発表を通して，分かりやすい話し方を意識して話したり，聞いたりし，よい点や直した方がよい点を考えさせる。） 私の気付かないことを友達が教えてくれた！ 	個 グループ 一斉	■言葉の使い方を意識して自分の思いや考えと，理由をはっきりさせて話しているか。【話・聞】 ■話し方のよい点や直した方がよい点を考えながら聞くことができているか。 ◇（観察・発表・自己評価） ぼくの考えが，みんなに理解された。よかった！ ・オモチャのマイクを準備して雰囲気を盛り上げる。 ◇ＩＣレコーダーに音声を録音し，補助簿で評価する。 今日の発見はいっぱいあります！それは・・・
まとめ 8分	６．本教材の学習を振り返る。 ７．振り返りカードを記入する。	○学習を振り返り，これからの話し合い活動に生かしたいことは何か考えさせる。 ○本時の授業を振り返って感想を書く。	個 一斉	・振り返りカード

５　授業仮説の検証

本時の授業仮説について，児童によるワークシートの記述や授業観察を通しての教師の評価，児童の自己評価を基に検証する。

表５「話すこと・聞くこと」の評価（対象児童 23 名）

検証場面	検証の観点	評価基準				検証の方法	検証結果 評価基準値 ＡＢの合計
		A 十分満足できる	B 満足できる	C やや努力を要す	D 努力を要す		
話す活動	(1)言葉の使い方を意識して理由をはっきりさせて話すことができたか。	「相手に聞こえる声で話す」「理由を２つ以上言える」「理由を表すときに使う言葉が使える」（全てできた）	〃 （２つできた）	〃 （１つできた）	〃 （できない）	・授業観察 ・自己評価 ・ワークシート ・ＩＣレコーダ	22 名 (96%)
	結　果	18 名(79%)	4 名(17%)	１名(4%)	０名		
聞く活動	(2)話し方のよい点や直した方がよい点を考えながら聞くことができたか。	「話し方のよい点に気づけた」「質問をしたり感想を述べたりできた」「互いの共通点や相違点を考えて聞けた」（全てできた）	〃 （２つできた）	〃 （１つできた）	〃 （できない）	・授業観察 ・自己評価 ・ワークシート ・ＩＣレコーダ	23 名 (100%)
	結　果	17 名(76%)	5 名（24%）	０名	０名		
書く活動	(3)「言葉の力」をもとに理由を挙げ，筋道を立てて書くことができたか。	「ヒントなしのワークシートに書くことができた」「理由を２つ以上挙げることができた」「理由を表す時に使う言葉が使えた」（全てできた）	〃 （２つできた）	〃 （１つできた）	〃 （できない）	・授業観察 ・ワークシート ・ＩＣレコーダ	23 名 (100%)
	結　果	20 名(87%)	3 名(13%)	０名	０名		

(1)「言葉の使い方を意識して，理由をはっきりさせて話すことができたか。」について

これまで，日常の鍛えの中で課題日記，音読，スピーチなど学校だけでなく家庭においても多様な方法で学習を進めてきた。検証授業においては，国語科の教科書全ての教材を比べて読み，児童の実態と教師の願いをもとに教材を選び，教材を重ねて授業を行ってきた。

本時は，２つめの教材の第３時間目で，自分で選んだものに理由をつけて話したり聞いたりする活動である。話したり聞いたりする活動の前に，自分の思いや考えをワークシートに書いてまとめることを繰り返し行うことで,言葉と言葉のつながりを意識して筋道を立てて話す力が育ってきた。ワークシート上の言葉と言葉のつながりや文の構成のヒントを得て，自分なりに考えをまとめて話す児童もいたが（３名 14%）スパイラルに培ってきた言葉の力を生かして，意欲的に話したり聞いたりする児童も増えてきた。(20 名 86%)また，言葉と言葉のつながりを意識した基本的な表現スキルの習得や活用を図ることにより，児童が自分の思いや考えを論理的に表現することへつながっていった。そのことは，さらに互いの思いや考えを関連づけ，新たに発見，発展させていく学び合いの学習へとつながりつつある。それぞれの教材や言語活動でつけたい力を明確にし，言語活動の活用を行いながら知識・技能の習得を織り込む学習指導の工夫は，論理的に表現する力を育むことに有効であったといえる。

(2) 「話し方のよい点や直した方がよい点を考えながら聞くことができているか。」について

表５より聞く活動において，「話し方のよい点に気付けた」や「質問をしたり感想を述べたりできた」についてみてみると，全員の児童が「十分満足できた」23 名（100%）であることが分かった。一方，「互いの共通点や相違点を考えて聞けた」については５名(21%）の児童が「できなかった」こともわかった。また，**図１「視点をもった聞き方」の変容**は，**表５**の一部を抜き出して検証前と検証後を比較したものである。これまでも，授業の中で聞く視点をもった聞き方①「相手を聞く」②「内容を聞く」③「自分を聞く」の３つの視点について取り出して指導をした。特に，自分の思いや考えと比較して聞くことができた児童が，48 ポイントも伸びたことについて，継続して学習することで，児童は，考えながら話を聞くようになり，聞く楽しさや喜びを味い，聞く力が育ってきたと言える。

しかし，今回の授業で「違うものを選んだのに理由は同じ」というような場面があった。それは，友達に誕生カードを書ならサインペンか色鉛筆のどちらにするかという内容である。ある児童は，サインペンを選び，別の児童は色鉛筆を選んだ。理由は，「重ねてぬると色がきれいだから」と同じであった。そこから，教室全体の学びの場へと十分につなげられなかった。今後は，自分自身や友達の思いや考えの共通点や相違点について，広がりや発展性をしっかりとらえた学習の展開ができる場を構築していくことも必要である。

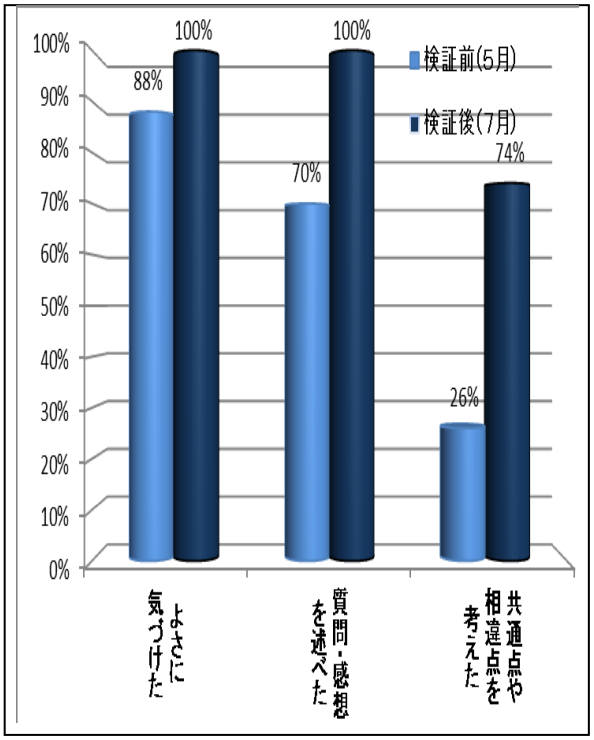


図１「視点をもった聞き方」の変容

Ⅴ　研究の結果と考察

研究の考察は，国語意識アンケート（検証授業前５月と検証授業後７月），毎時間のワークシートと振り返りカード（自己評価）を基に行う。検証の方法についてはⅡ－２の検証計画参照。

１　論理的に表現するために，基本的な表現スキルの習得・活用を図り，学習の仕方を身につけることによって，筋道を立てて話したり聞いたりすることができたかについて

(1) アンケートの結果から

基本的な表現スキルを身につけ活用し，論理的に表現できるようになったかについてのアンケートは，次のような結果であった。

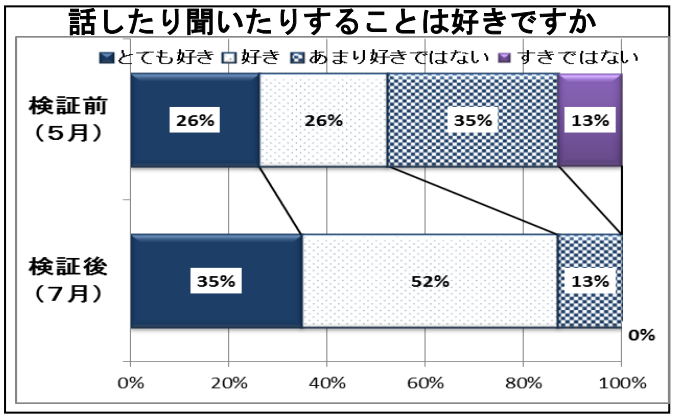


図２　話すこと・聞くことについて（23 名）

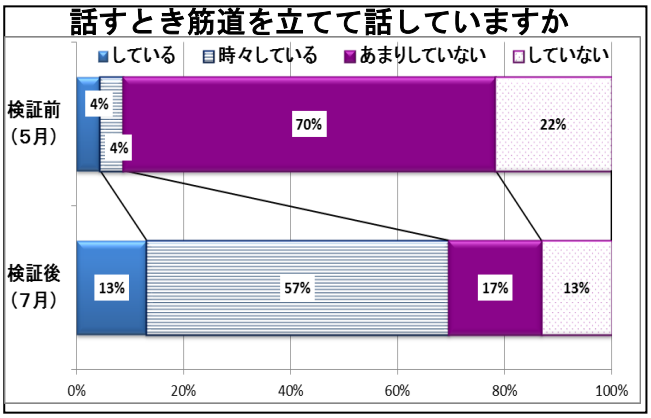


図３　筋道を立てて話すことについて（23 名）

図２は，「あなたは，授業の中で話したり聞いたりすることは好きですか。」の問いに児童が答えた結果である。「とても好き」と答えた児童は検証授業前で６名（26%），「好き」と答えた児童も６名(26%)であった。検証授業後は，「とても好き」が８名(35%)，「好き」は 12 名(52%)双方併せて比較すると，検証授業前は 12 名(52%)，検証授業後は 20 名(87%)で８名(35%)増えている。

図３では，「話をする時は，筋道を立てて話をしようとしていますか。」の問いに対し，「している」「時々している」と答えた児童は，２名（8%)だったのに対し，検証授業後は 16 名(70%)と 14 名(62%)増加していた。２つのアンケートの結果から，基本的な表現スキルの習得・活用と学習形態を工夫したことにより，文章の構成を意識して話したり聞いたりする活動の楽しさを味わわせ，童それぞれが意欲をもって学習し，さらに教室全体で学び合いたいという大きな意欲へと向かうことができたと言える。

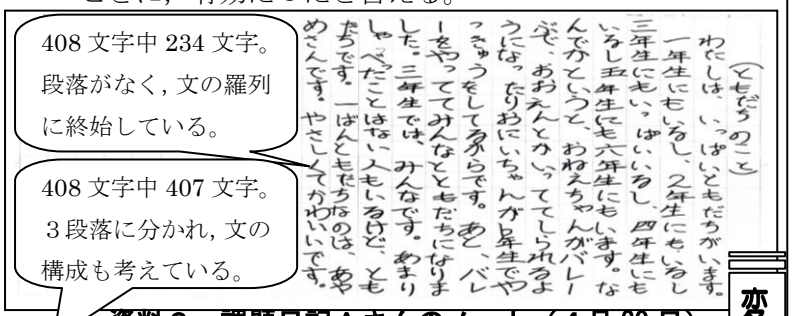
検証後の２つのアンケートの結果から，「話したり聞いたりすることは，あまり好きではない。」「話をする時，筋道を立てて話をしようとしていない。」という児童が３名(13%)いる。それらの児童については，文章の組み立ての仕方がわかり始め，授業においては，ヒントを頼りにしながら，「できるようになりたい」という思いが感じられた。活動を重ねる度に意欲的に学習し，自分の思いや考えを表出し，着実に言葉と言葉のつながりを意識した伝え合う力が育っていることが，観察やワークシート，ＩＣレコーダーの音声を通してもわかった。

⑵ 日常の鍛え（課題日記・30 秒スピーチ・音読活動）から

資料２の 18 マスノートを活用し，課題日記のめあてを持たせ，意図的・系統的にステップ学習(表現スキル)**資料４**取り入れることによって，児童は，書く活動を通して論理的な表現力が高まった。**資料３**の児童の表現の変容からも，課題日記に毎日取り組んだ成果や満足度がわかる。このことから，課題日記を取り入れた指導の工夫は，自分の思いや考えを論理的に表現する力を育てることに，有効だったと言える。

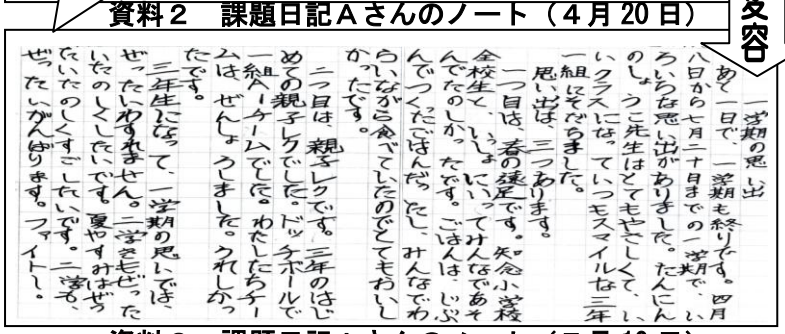
408 文字中 234 文字。段落がなく，文の羅列に終始している。

408 文字中 407 文字。３段落に分かれ，文の構成も考えている。



資料２　課題日記Ａさんのノート（４月 20 日）

変容



資料３　課題日記Ａさんのノート（７月 19 日）

資料４　表現スキル

⑶ 30 秒スピーチから

課題日記を生かして，毎日２名（日直）の児童が 30 秒スピーチを行った。家庭でやる宿題の１つに課題日記があるが，自分で書いた課題日記を朝の会の短い時間で，堂々と読めるようにすることがポイントである。人前で話したり聞いたり，話し合ったりすることの基礎となる活動と捉え，継続して行った。系統性をもって継続してステップ学習をすることにより，聞き手に自分の思いや考えを伝えることが，短い時間でもきちんとできるようになったと言える。日常の鍛えの１つである課題日記を通して，30 秒スピーチを行った指導の工夫は，自分の思いや考えを筋道立てて，伝える力を育む指導に効果が出た。

(4) 音読活動から

５月中旬より音読活動を始めた。これまでに学習した単元「ゆうすげ村の小さな旅館」を毎朝，自習の時間に全員で一斉に読むことにした。姿勢良く，声の大きさに注意してすらすら読めるようにすることを最初の目標とした。当初は，タイムを計ると約 10 分であった。その後，毎朝音読活動を続けていくうちに声がそろい，リズム感をもって響きを味わって読む児童の様子が見られるようになった。

７月中旬には同じ単元を約５分で読み終えることができた。日々，決まった時間に音読活動を取り入れることで児童は発声や発音，文章の構成などに気づいた。検証授業においては，聞き取りやすい話し方や間の取り方，リズムなど「話すこと・聞くこと」の学習を支える力を育む有効な指導だと言えた。

２　「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の関連を図り，時間や場の設定を工夫することで自信をもって意欲的に，活動に取り組む児童を育てることができたか。

(1) アンケートの結果から

図４を見ると，「思ったことや感じたことを筋道立て話すために，書くことは必要だと思いますか。」の問いに対し，「とても必要」「必要」と答えた児童は，検証前で 15 名（63％）だったのに対して，検証後では，23 名（100％）で，37 ポイント伸びている。目的意識や相手意識をもって聞き手にわかりやすく伝えるということは，単に話したり聞いたりするのではなく，論理的に表現することが重要となる。

中学年のこの時期の児童は，自分の思っていることや考えていることを，すぐに話すことに慣れていないことが多い。そこで，意図して話したり聞いたりするために書く活動を取り入れ，書くことによって自分の思いや考えを頭の中で整理し，再構成しながら表出する作業を繰り返し行った。その積み重ねにより，話したり聞いたりする学習活動が充実したことがわかる。

また，書く活動の中で，書いた文章を読み返しながら順序や理由，文と文のつながりや構成などについて何度も振り返り，思いや考えを再構築できる面からも，児童に論理的な表現の力を身につけさせるための有効な方法だと言える。

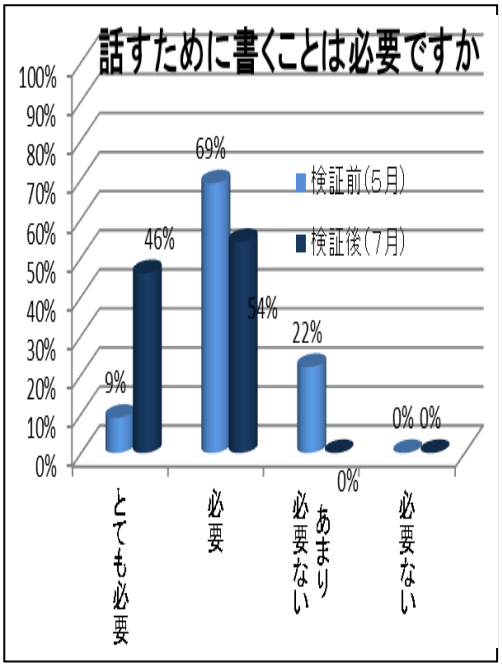
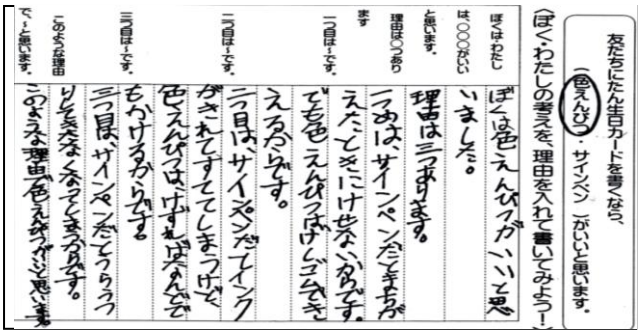


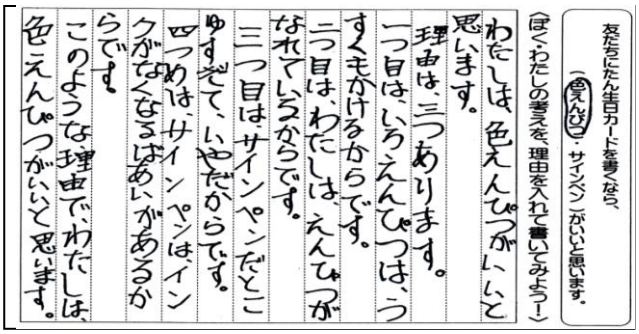
図４　書くことに関するアンケート

(2) ワークシートの工夫から

第３次で児童は，実際に話したり聞いたりして，理由を示しながら，わかりやすく自分の考えを伝えた。事前にワークシートを活用することで，聞き手にわかりやすく伝え合うグループ活動へとつないだ。そこでは，単元で身につけさせたい力の表現スキルをワークシートの中で取り出して，指導の工夫をした。具体的には，２種類のワークシートを用意し，児童自ら選んで書くことを通して，身につけさせたい表現スキルを意識できると考えた。そのことは，客観的に自分をみつめるきっかけにもなり，考えたことを論理的に表現する力が育まれる。**資料５**は３名，**資料６**は 20 名の児童がワークシートを選び，自分の思いや考えを書くことができた。そのことでグループ活動が活発に繰り広げられ，意見と複数の理由を整理して，わかりやすく伝える話し合いへと発展させることができた。ワークシートの工夫が有効であったと言える。


友だちにたん生日カードを書くなら、
（色えんぴつ・サインペン）がいいと思います。
（ぼく・わたしの考えを、理由を入れて書いてみよう！）
ぼくは色えんぴつがいいと思いました。
理由は三つあります。
一つめは、サインペンだとまちがえたときにけせないからです。
でも色えんぴつはけしゴムできえるからです。
二つ目は、サインペンだとインクがにじんですぐてしまうけど色えんぴつはけすのもんだいもないからです。
三つ目は、サインペンだとうすくなってしまうからです。
このような理由で色えんぴつがいいと思います。
ぼくはわたしは○○○がいいと思います。
理由は○つあります
二つ目は○○です。
二つ目は○○です。
三つ目は○○です。
このような理由で○○と思います。

資料５　表現スキル付きワークシート


友だちにたん生日カードを書くなら、
（色えんぴつ・サインペン）がいいと思います。
（ぼく・わたしの考えを、理由を入れて書いてみよう！）
わたしは、色えんぴつがいいと思います。
理由は、三つあります。
一つ目は、いろいろえんぴつは、うすくもかけるからです。
二つ目は、わたしは、えんぴつがなれているからです。
三つ目は、サインペンだとこゆすぎて、いやだからです。
四つめは、サインペンは、インクがなくなるはあいがあるからです。
このような理由で、わたしは、色えんぴつがいいと思います。

資料６　表現スキルなしワークシート

(3) 授業の形態や場の設定の工夫から

第３次の授業の流れを一斉→グループ→個→グループ→一斉→個→一斉の形態で進めていった。その中では，個人による書く活動やグループによる話したり聞いたりする活動，そして全体で話したり聞いたりする活動へと発展した。授業では，児童に十分な活動時間を確保し，尚且つ交流を通して学び,発見や自分の考えの形成をするために時間の設定を工夫する必要があると考えた。また，全体を７つのグループに分け，その中の５グループを３名，２グループを４名ずつに配置して活動した。実際に，話したり聞いたりする時はエコーマイクを使い，雰囲気が盛り上がるように演出をするなど，形態や場の設定の工夫を行った。

児童はこれまでの書く活動，話したり聞いたりする活動のために，教材を２つ重ねて授業をする中で，基礎的な表現スキルを習得し，それを活用して活発に交流が行われた。そのことからも，形態や場の設定の指導の工夫は,交流活動の楽しさを味わわせ,意欲的に話したり聞いたりする活動に取り組む児童を育てることができたと言える。

しかしながら，授業の終盤にさしかかり，それぞれのグループの交流を今度は学級全体の交流へと発展させた時，児童同士の考えのすり合わせ（比べ読み）の中で，新たな発見や深まり，広がりにつながる話題が展開されそうになったが，教師のアドバイスの弱さからか，まとめが少し弱い感じがした。児童のさらなる活動を見通した活動の研究が必要である。

(4) 児童の感想（さわはカード）から

資料７より,毎時間の振り返りカードに「さわはカード」（東京学芸大学付属小金井中学校，国語科，松原洋子先生を参考に付け足したもの）を活用し，自己評価を行った。

児童の生き生きと活動している様子がわかり，表現スキルを習得，活用することにより，わかる楽しさを自ら体感したと言える。また，言語活動の活用を行いながら，表現スキルの習得を織り込むというような学習の方法を活用して授業を展開した。児童の感想から授業を通して発見や驚き,児童同士の気づきなど,満足感や達成感が得られたことがわかる。また，児童自ら授業を振り返り，今後の授業への取り組みに対する気持ちを整理し省察することで，深く広がりのある学びへとつなげるきっかけとしたい。

㋐	授業の参加度
㋑	内容が分かった度
㋒	今日の発見
㋓	授業の感想
㋔	人 → ㋕ 友達のよさ / ㋖ 自分のよさ

資料７　「さわはカード」

資料８　授業後の振り返りカード

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

１　研究の成果

(1) 「話すこと・聞くこと」と「書くこと」を関連づけ，知識や表現スキルの定着や活用を図ることで，自分の思いや考えを筋道立てて表現する姿が見られ，論理的表現力を高めることができた。（Ⅴ-1）

(2) 身につけさせたい力を明確にし，系統的な指導を工夫することによって，効果的に学習し，自信や意欲につながることがわかった。（Ⅴ－２）

(3) 学習形態や場の設定を工夫することは，個に応じた学習から教室全体の学びへとつながり，広がりや発展性のある授業の展開に有効だとわかった。（Ⅴ－２）

２　今後の課題

(1) 学校や家庭，地域にあった幼・小・中における表現スキルの系統性の見直し。（Ⅴ-1）

(2) 「論理的に表現する力」を育成するための継続的・系統的な指導の工夫。（Ⅴ-1）

〈主な参考文献〉

文部科学省	『小学校学習指導要領解説　国語編』	東洋館出版社	2008 年
中山　厚子	『子どもが輝く国語科授業　話すこと・聞くこと編』	東洋館出版社	2001 年
大越　和孝	『子どもが輝く国語か授業　書くこと編』	東洋館出版社	2001 年
井上　一郎	『話す力・聞く力の基礎・基本』	明治図書	2009 年
小森　　茂	『新国語科の考え方と授業展開』	文溪堂	2010 年
花田修一・村松賢一・若林富男編著	『相互交流能力を育てる「意見・説得」学習への挑戦』	明治図書	2008 年
	『読解力向上に関する資料−ＰＩＳＡ調査（読解力）の結果分析と改善の方向』		2005 年
日本国語教育学会	『月刊　国語教育研究№411』		2006 年
総監修　柴崎正行	『月刊保育とカリキュラム　４月特別付録』		2011 年